

自己評価シート

職員による自己評価

A環境面

- ・教室は整理整頓されていて使いやすい。
- ・職員数は確保されている。
- ・利用者同士の関係に配慮された活動がなされている。

B利用者への支援内容

- ・利用者のニーズや困り感を把握した支援ができており、支援の成果が学校や家庭で表れていると感じている。
- ・当日の利用者の情報をスタッフで共有できている。

C関係機関との連携

- ・利用者関係機関、学校や地域などとの関わりが出来ていないと感じている。

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・学習・余暇活動報告はおおむねできている。
- ・個別支援計画作成時の面談での保護者の要望等を支援に十分生かし切れていない。

E非常時対応

- ・災害対応訓練（地震、火災、不審者、虐待拘束）は年間計画に沿って実施している。
- ・避難場所は利用者に周知できている。
- ・ヒヤリハットは共有し対策している。

保護者による評価

A環境面

- ・教室は整理整頓されている。
- ・他の利用者との関係が配慮されていて、スタッフの人数は十分と感じている。

B利用者への支援内容

- ・支援は、利用者のニーズを把握したものになっていると感じている。
- ・支援の成果が学校や家庭で現れていると感じている。
- ・カフェは有意義だと感じている

C関係機関との連携

- ・学校や関係機関との連携については十分と感じている保護者は少ない。

D事業所からの情報発信

- ・保護者面談は有意義なものと感じている。
- ・レクタスのホームページやブログを閲覧している保護者は少ない。
- ・お知らせや配布物はきちんと届いている。
- ・個人情報管理されていると感じる

E非常時対応

- ・非常時対応訓練は実施した内容を保護者に伝えられている。
- ・虐待防止対策はできていると感じている。
- ・緊急連絡先をきちんと伝えている。

事業所内での分析

【共通点】

- ①利用者や保護者のニーズや困り感を把握した支援ができています。
- ②支援の成果が学校や家庭で表れていると感じている。
- ③関係機関との連携が十分にはされていないと感じている。
- ④災害時対応訓練は定期的に行っており、緊急時の対策はできていると感じている。

【相違点】

- ①レクタスのホームページやブログはあまり見られていない。
- ②スタッフは面談での保護者の要望を、活動に活かし切れていないと感じている。
- ③保護者は講演会、学習会が足りていないと感じている。

分析・検証してみた

事業所の強み

- ①個に応じた学習支援、余暇活動、保護者支援を基本にした放デイ。
- ②余暇活動で利用者に見合ったゲームやおしゃべりができる。
- ③カフェコーナーの利用で自分で選び、おやつを購入できる（買い物体験）。
- ④駅から徒歩1分という立地。
- ⑤職員の和が保たれ、非常時対策もしっかり行い利用者に安心感を与えられる放デイ。

事業所の改善点

- ①関係機関との連携ができるよう、相談支援などを利用して働きかけていく。また、他の事業所とのかかわりにも積極的に取りくみ、保護者への情報提供に努める。
- ②保護者との面談の内容の職員間共有に努める。
- ③HPやブログの存在を周知する。
- ④保護者向けの学習会等を増やす。

事業所の改善への取り組み

- ①関係機関との連携を学校訪問等を念頭に置いて、積極的に進める。
- ②面談は必要時に行き、面談の内容は職員間で共有するように努める。
- ③HP・ブログについては保護者に周知し、記事を積極的に載せて活用する。また、事業所からのお知らせも随時配布していく。
- ④保護者学習会、保護者カフェを増やしていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

区役所・児相などから教室の空き状況を尋ねられることが多々あり、1対1の学習支援に対する需要が非常に高いことは自己評価からも明らかである。学校への行き渋り等がある利用者は、学習面での心配は大きな課題であり、この課題を解消することは大きな支えとなっている。

また、余暇活動においても、少人数での丁寧なかかわりは利用者に安心感を与られている。保護者支援を念頭に置いて、保護者カフェを開催し保護者同志の悩み等の共有や、本音で話し合うことができる場を作っている。利用者への支援として集団でのかかわりの場も増やしている。

今後も利用者や保護者から信頼の得られる誠実な活動を行っていきたい。

事業所名	レクタス放課後等デイサービス	鴨居教室
担当者	井上 奈穂子	